

令和7年度校内研究計画

1 研究主題

「9年間のつながりを大切にしたい人権・同和教育の研究」

～自分の思いを伝え合い、互いに認め合う反差別の行動ができる子どもの育成をめざして～

2 研究主題設定の趣旨

東陵学園校区においては、1990年代に差別事象が発生し、職員研修の充実、学校全体としての取組、人権学習等の見直しが課題としてあがった。そこで、「同和教育実践の促進」「教職員の同和教育への認識と実践力の向上」「児童・生徒の反差別の認識の涵養」を目的として、小中それぞれで取組を開始した。小学校においては、共通の教材を用いた全学年における人権学習の授業実践（以下、「共通教材」）を開始し、中学校においては人権討論会の実施、系統だった学習計画の作成を推進した。その後、保小中連携も含めた年3回の合同研修会が設けられ、2004年以降は共通教材を用いた授業の小学校相互参観や全職員参観、教材の見直しなど実践の在り方について試行錯誤を続けてきた。

昨年度まで、保小中で学年グループを設定しての参観、小学校6年生部落史学習「人の生き方に学ぶ」、中学校における部落差別解消のための学習等、系統だった実践を継続している。今年度、義務教育学校「東陵学園」が開校した。これまで東陵中校区で取り組んできた実践をより深め、系統性を意識した研究をしていきながら、自分の思いを伝え合い、互いに認め合う反差別の行動ができる子どもの育成をめざしていく。

本学園の児童・生徒は、開校前まで、大川小・松浦小とともに1学級15人前後の小規模で学校生活を送っており、十分な広さの教室や限られた友達関係の中で生活をしてきた。しかし、開校後は、人数が倍に増え、教室も狭くなり、さらに9年生まで同じ校舎で過ごすため、新しい友達と良好な友達関係を築くことができなかつたり、これまでの環境との変化に不安感を抱き、適応できなかつたりする児童・生徒がいる。このような実態を踏まえ、9年間のつながりを大切に、自己肯定感情を高めたり、他者を理解したりする活動を取り入れることで人権感覚を磨き、いじめや差別を見抜く力を養うことを目指していく。さらに、目の前のいじめや差別の解消に向けて、具体的な言動として現れるような人権尊重の態度を身に付けさせることで主題に迫りたい。

3 研究の目標

人権・同和教育の実践を通して、自分の思いを伝え合い、互いに認め合う反差別の行動ができる子どもを育てるために知識、価値・態度、技能の3側面の向上を図り、9年間の系統的な指導方法を探る。

4 研究の仮説

9年間の系統的な学習を通して知的側面、価値的・態度的側面、技能的側面の3側面の向上を図れば、自他の人権を尊重し、反差別の行動ができる子どもの育成につながっていくであろう。

知識的側面（人権問題に関する正しい知識、確かな人権感覚）

自由、責任、正義、個人の尊重の権利、義務などの諸概念についての知識、人権の歴史や現状についての知識、自他の人権を擁護し人権侵害を予防したり、解決したりするために必要な実践的知識等の側面

価値的・態度的側面（自他の人権を守ろうとする意識、意欲や態度の向上）

人間の尊厳の尊重、自他の人権の尊重、多様性に対する肯定的評価、責任感、正義や自由の実現のために活動しようとする意欲等の側面

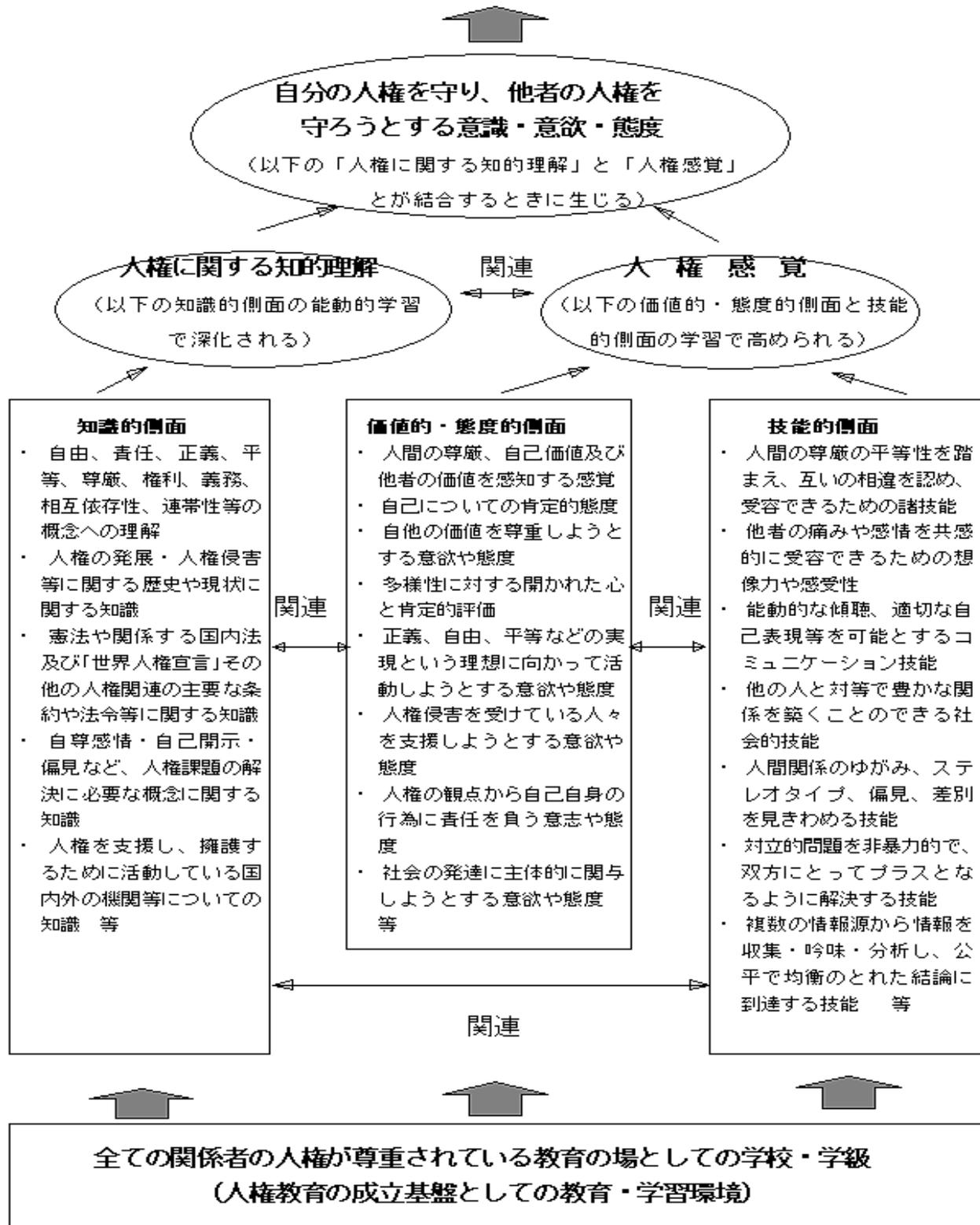
技能的側面（自他の人権を守ろうとする行動力）

コミュニケーション技能、合理的・分析的に思考する技能や偏見や差別を見極める技能、その他相違を認めて受容できるための諸技能、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能等の側面

※参考：人権教育の指導方法などの在り方について〔第三次とりまとめ〕 文部科学省、令和5年度佐賀県教育施策実施計画より

【参考】

「人権教育を通じて育てたい資質・能力」
自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動



※参考：人権教育の指導方法などの在り方について〔第三次とりまとめ〕 文部科学省より

5 研究の各内容(ア・イ・ウ)と方法(・)

ア 人権が尊重される環境づくり

- ・ 個に応じ、個を生かす支援体制の整備
- ・ 「気になる子」への支援と援助
- ・ 人権感覚を高めるため職員研修
- ・ 人権感覚アンケートの検討(内容・実施方法・時期 等)
- ・ 校内掲示板(児童生徒昇降口横)(5・6年近くの人権コーナー掲示板)の作成

イ 人権が尊重される学習活動づくり

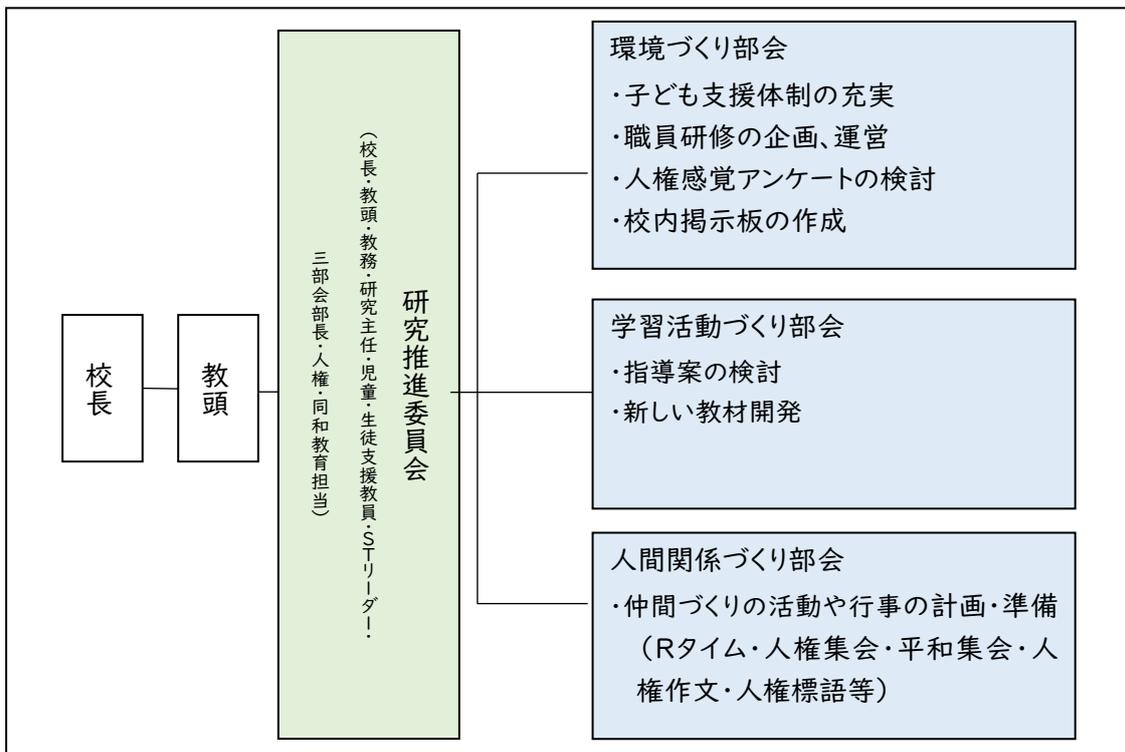
- ・ 部落史学習・部落差別を解消するための学習
- ・ 人権が尊重される授業づくり
- ・ さまざまな人権課題についての学習

ウ 人権が尊重される人間関係づくり

- ・ 支持的風土のもと思いを伝え合い、行動につながる集団づくり(Rタイム、人権集会 等)

RタイムのRとは, relax(ほぐす), relation(つながり), rights(権利)の頭文字のRです。
 Rタイムの時間に、構成的グループエンカウンターやグループワークトレーニング, ソーシャルスキル等を行うことで、コミュニケーション能力の育成やよりよい人間関係づくりの土台となる力を養います。
 ※東陵中学校資料より

6 研究の組織



7 略

【グループ研について】

- ・グループ研の実施日、時間はその学年グループで決める。
- ・※授業の2週間前までに・・・ 学年グループ代表者→研究主任→教務主任→週案に入れる。
- ・グループ研は感想用紙を記入し、授業研究会の代わりとする。

8 研究のまとめの方法

- ・授業で使用した指導案、資料、感想用紙等をまとめとして年度末に提出する。冊子は作成しない。
- ・各専門部から成果と課題を出し合い、部長が資料(A41枚程度)にまとめて年度末に提出する。

9. 各学年のめざす児童・生徒像

する 自他を認識し、他者を尊重	1年	友だちと関わる楽しさを感じ、自分のよさに気づくことができる児童
	2年	自分や友だちのよさに気づき大切にしようとする集団
	3年	自分や友だちのよさを認めて、助け合うことができる集団
して、協力、協働する 多様性を当たり前のものとする	4年	多様な考え方や価値観に気づき、受け入れようとする集団
	5年	多様な考え方や価値観を認め、助け合うことができる集団
	6年	多様な考え方や価値観を認め合い、だれもが安心して過ごせる集団
ができる いじめや差別に気付き、反 差別のために行動すること	7年	よりよいクラスにするために、自分たちで解決していける集団
	8年	よりよい集団にするために、自分たちで解決していける集団
	9年	いじめや差別に気づき、反差別の行動ができる集団

10. 年間計画 略